

2020年度 織田ファッション専門学校 自己評価報告書

作成日 2021年8月23日

はじめに

2020年度の事業計画に対して、その進捗や達成度を確認する観点にて自己点検評価を実施した。

ただし、事業計画の内容の多くは単年度、短期的なものではなく、複数年に亙る長期的な視点での目標、計画である場合が多い。

本学においても、普遍的な課題であったり達成基準の無い目標も多く設定されている。それらに関しては到達という観点ではなく、取り組みに対して真摯であったかどうかを評価の軸としている。

※尚、評価は4～1の数値にて表す。適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切・未実施…1

長期的に本学の教育理念に沿った理想的な学校とするべく、その過程における今年度の1歩について以下に評価を報告する。

学校の理念と教育目標

理念 社会に必要とされる人材を育てる学校そして学生が明るく楽しく学ぶことができる学校を目指します。

- 目標
- ・専門知識と技術力を高め、社会に貢献できる人材を育成します。
 - ・学生一人ひとりの個性を尊重し、将来の夢を実現できるように導く教育を実践します。
 - ・時代の社会環境に応じて教育内容をフレキシブルに対応し就職を意識した実践的な教育を行います。

重点的に取り組んだ目標及び計画等

- ・人間力の向上を目指し、学生の考える力を鍛える。
- ・クオリティーを追求して基本を再認識し、技術を継承する。
- ・ファッションビジネスの現場で即戦力となるよう実践的なカリキュラムとインターンシップの構築。

1. 教育理念・目標・育成人材像

評価項目	評価	評価内容	課題
理念・目標・育成人材像は、定められているか。	4	理念等はWEBサイト、学生のしおり等を通じて公表し、教職員、学生、保護者等に周知されている。	時代や社会情勢の変化も鑑みながら必要により改訂を検討していく必要がある。
学校における職業教育の特色が明確になっているか。	4	学生に対しオリエンテーションで説明し、周知している。	業界で求められる人材像の変化をとらえながら、職業教育に必要な内容を検討していく。
各学科の教育目標・育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	各学科は今の業界のニーズに向けて具体的に取り組んでいる。	外部講師や教育課程編成委員会を通じて、業界のニーズを知り、教育目標を決めていく。
学校の教育理念に沿った①アドミッションポリシー ②カリキュラムポリシー ③ディプロマポリシーを設定または改訂できたか。	3	①従来のアドミッションポリシーを再確認し、見直しを図る。②明文化に向けて準備を進める。③明文化に向けて準備を進める。	明文化するだけでなく、その内容を毎年アップデートしていくことが肝要である。

コメント

- ①アドミッションポリシーについて、再検討し見直しを図る。
- ②カリキュラムポリシーについては、これまで特に明文化せずに運用していたが、この機会に明文化するべく取り組んでいる。
- ③ディプロマポリシーについては従来学則にて規定しているものをもとに明文化するべく取り組んでいる。
- これらのポリシーを外部へ発信することも視野に入れ、調整を続ける。

2. 学校運営

評価項目	評価	評価内容	課題
教育理念・目標に沿った運営方針が策定されているか。	4	教育理念・目標に沿った運営をしている。	時代に沿った教育理念への見直しも必要。
外部関係者の評価（教育課程編成委員会）を有効に活用できたか。	4	教育課程編成委員会を開催し、意見を参考に学生が卒業後企業等で活躍出来るようカリキュラムを検討・変更を行っている。	多くの参考となるご意見を活用するべく、より具体的に計画を立てて進めてゆきたい。
現場経験のある教員やファッション業界で活躍中の卒業生の活用は促進できたか。	4	ほとんどの教員が現場経験があり、経験を活かし指導している。現場で活躍している卒業生から最近の状況や学生時代のことなどを在校生に向けて話してもらう機会を設けている。	今後も卒業生と連絡を密に取り合い、在校生に向けて現場実践での話を聞く機会をさらに設けてゆきたい。
外部企業等に強い外部講師等は有効に活用できたか。	4	講師より新たに企業とのコラボレーションをコーディネートしていただき具体的に授業へ取り入れ進行している。	コロナ禍において激しく変化する社会に対応できるよう現場経験豊富な講師との関係をさらに有効活用していきたい。
学生のニーズは把握できたか。	4	進級時、学生アンケートを実施。「こんな授業を受けてみたい」という設問を通じて具体的な教育ニーズを調査した。	学生アンケートの結果を客観的に分析し、次年度の事業計画へと反映させる検討の仕組みを構築する必要がある。
情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	教員1人1台のPCの貸与や、クラウドワークフローシステム等が整備されている。	学内システムを使用して、申請書類提出や稟議提出をさらに効率化させたい。
<p>コメント</p> <p>定期的に外部から意見を聞く機会を設けることにより、具体的に改善すべき事項が見えてきているため、今後は計画的にカリキュラムに取り入れていきたい。講師は本校の勤務が長い方が多く学生が求めていることを把握され、積極的に提案をしてくださるので今後も企業との関わりを重視してよりニーズに沿ったカリキュラム内容を検討していきたい。</p>			

3. 教育活動

評価項目	評価	評価内容	課題
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか。	4	教育理念を基本としたカリキュラム編成がなされている。	今後は企業とより連携して意見を伺い、カリキュラム編成を検討していきたい。
教育カリキュラムは体系的に編成されているか。	4	毎年修正を加えながら体系的にカリキュラムが編成されている。	企業が求める人材を育成するべく、より実践的で時代に沿った技術や知識を学ぶカリキュラム作りを継続していきたい。
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立って、カリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	企業コラボ・インターンシップを通して実践的な職業教育を実施している。	コロナ禍において企業とのつながりも難しい点があったが、今後も実践的な職業教育を継続していきたい。

実践的な職業教育（産学連携教育、インターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか。	4	企業コラボ・インターンシップを通して実践的な職業教育を実施している。	コロナの影響もあり、インターンシップの受け入れが例年よりも減少したが、今後はまた受け入れていただけるよう企業に働きかけていきたい。
授業評価を実施し、その評価体制はあるか。	4	卒業時における発表等で外部審査員により評価をいただいている。	外部審査員からのご意見をもとにより良い授業内容への改善に繋げたい。
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	4	成績評価・単位認定の基準は学則に記載されており、明確になっている。年2回成績表を保護者宛に送り、出席も含めて情報共有している。	特になし。
教員の研修・自己啓発は促進できたか。	4	毎年自己研修目標を設定している。年度初日に研修発表をし、校長より評価をいただいている。外部研修（今回はオンライン）に積極的に参加し自己啓発を行っている。	外部への研修は職員によって差があり、今後はさらに参加を促す様、教員それぞれの目標を定めて取り組んでいきたい。
コメント 職業実践専門課程への申請に伴い、計画的な教員の研修が必要となる。今後各課程の方向性を再検討し、教員一人一人が目標を持ち各自がさらに能力を伸ばし教育の質を高めていきたい。			

4. 学修成果

評価項目	評価	評価内容	課題
生活支援の充実化は図れたか。	4	各種公的奨学制度を案内し、急な家庭の事情の変化などにも相談に乗っている。経済的な理由で専攻科に進学出来ない学生に対して特待生制度を活用している。	家庭の事情によりアルバイトに多くの時間を割く学生も多く、学校との両立が出来る様に学生と密にコミュニケーションをとることが求められる。
教育支援の充実化は図れたか。	4	全教室Wi-Fiの環境が整備され、授業内で積極的に利用している。iPadの活用により、書類の配布、課題の提出などオンラインの活用が進んでいる。	iPadを利用する事でかなりのペーパーレス化が進んだが、アナログの良い部分は残し、さらにデジタル化を進めていきたい。
就職支援の充実化は図れたか。	3	コロナ禍における就職は厳しかったが、卒業後も支援を続けており就職率は3月よりも伸びている。	キャリアセンターと担任が連携して、就職指導をより密に進めていきたい。
コメント コロナ禍で国からの支援も数回あったが、支援を求める学生が多数いた。学生のアルバイト収入も激減している状況もあり、高等教育の無償化の手続きを進めたい。			

5. 学生支援

評価項目	評価	評価内容	課題
退学率の客観的数値(前年度比較)は改善したか。	3	20年度は出席率が低く進学した2年生の退学者が多かったが、今年度は出席状況は改善している。	学生が何らかの理由で休み始める兆しがあるため、しっかり学生を見守り気にかけていきたい。
心理検査(ハイパーQU)から得られた情報は適切に活用できたか。	4	ハイパーQUの結果はある程度学生たちの満足度が確認できるため、満足度の低い学生の様子を気を付けて見守っている。	情報量が多いため、繰り返し内容を確認して見直し活用してゆく必要がある。
学生のメンタルヘルス対応は積極的に取り組めたか。	4	専用のメンタルヘルス相談窓口を設けている。さらに少人数クラスで担任制を取っており、一人一人と話をする機会を多く持つようにしている。	しっかり話を聞く時間を確保していく必要がある。
卒業生への支援体制はあるか。	4	同窓会費用で卒業生の活躍を支援している。卒業生が転職や仕事についての相談に来た際には、相談や求人を紹介している。	同窓会を組織化し、住所変更等連絡が取れるようにWEBサイトを活用しアクセスを増やしたい。今後はキャリアマップにより卒業後の連絡が取りやすくなる予定。
学生情報の教職員間での共有は効果的に行えたか。	4	毎週各課程ごとに会議を開き、共通課題や学生間の問題を共有している。	会議時間が長くなりがちなので問題点を絞り、効率よく会議を進めてゆきたい。
保護者との連携は適切だったか。	4	欠席が続く場合は保護者に電話連絡をして状況を説明し、家庭からの協力もお願いしている。	保護者への連絡は、夜遅い時間や休日しか取れない場合が多い。
<p>コメント</p> <p>心の問題を抱えている学生の対応は大変難しい。しかし中学、高校時代に問題を抱え毎日登校していなかった学生が、目標をもって入学し楽しんで通学している学生も多い。精神的に不安定になる学生もいるが話を聞くことで解決できる場合もあり、本学の強みでもある少人数制を活かして一人一人としっかりコミュニケーションを取ってゆきたい。</p>			

6. 教育環境

評価項目	評価	評価内容	課題
卒業生・在校生・学校間のネットワーク構築への取り組みについて進捗・改善は見られたか。	3	キャリアマップを通して在校生と連絡のやり取りや相談を受けている。卒業生からもキャリアセンターに連絡が入り、相談を受けている。	在校生はキャリアアップを頻繁に確認する習慣がついているが、卒業生の活用はまだ多くないため、定期的に学校からお知らせなどを発信する必要がある。
施設・設備は、教育の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	教室内のマシン、アイロンは毎年点検している。教室のWi-Fi環境の整備を行った。	設置している学生用ロッカー類を整備したい。
<p>コメント</p> <p>キャリアマップを導入した以降は、卒業生の把握をキャリアマップを通して行う計画だが、卒業後どれだけ活用してくれるかまだ未知数である。導入以前の卒業生にも定期的な行事等の案内を継続的に送り卒業生の動向を知り、卒業後も学校との関係が途切れないようにしていきたい。</p>			

7. 学生の受入れ募集

評価項目	評価	評価内容	課題
数値目標(入学生数80名)は達成できたか。	3	コロナ禍でガイダンスがなくなり、OCの参加者の減少がFB課程の入学数に結びつかなかった。	ガイダンスからOCへの参加率を高め、数値目標を達成させる。
OC参加者の増加は達成できたか。	3	6月以降人数を制限してOCを実施したため例年より参加者は減少したが、対面で実施している学校が少なかった中で感染対策をしっかりと行いOCを実施した。	教員も営業力をつけ、ガイダンスや模擬授業を通してOCに導けるようなスキルを身に付ける必要がある。
OCからの取り込み率は向上できたか。	4	毎回在校生がとても良くOC参加者と接してくれ、良い雰囲気作りで取り込み率向上に効果的な役割を担ってくれている。	OCの参加者が他校と迷っているときに、決定打となるような魅力を考え伝える必要がある。
学生募集における学校の訴求ポイントについて広報と協議の上で決められたか。	4	今年度新たに各科で売りに出来る内容を積極的に発信していくため、広報と話し合い広めている。	もっと本校の魅力をSNSで見てもらえるような工夫を検討していきたい。
広報物の訴求の一貫性を図れたか。	4	毎月送っているDMの内容を少しずつ変化させより多くOCに参加してもらえよう取り組んでいる。	効果的なDMの見え方を今後も検討していく必要がある。
広報物の制作にあたり、学校と広報とで意見交換が図られたか。	4	広報担当者は毎朝朝礼に出席し校内の様子を知り、度々職員室に訪れて情報共有やお互いの問題点を話し合っている。	広報物の確認の時間が短いので、余裕をもって制作してゆきたい。
広報担当スタッフとの連携を強化できたか。	4	OC当日の朝礼で教員全員で参加者の情報を共有し、次の日の朝礼で結果を報告している。その都度問題点を解決している。	もっと学校の魅力が発信できるように話し合い共有してゆきたい。
OC時の参加者対応スキルの向上は図れたか。	4	参加者への対応は学生がマンツーマンで指導し、グループ分けして教員が見守っている。学生は指導するために実際に製作を練習し、当日は自信をもって対応してくれている。	学生リーダーが毎回全体を回して頑張ってくれているが、もっと元気よく自分から言葉を発信してゆけるように指導してゆきたい。
OCの結果等の分析や、コース内容のブラッシュアップ等について学校と広報とで十分な意見交換ができたか。	4	広報と毎回参加者のアンケート結果を共有しそれをもとに次回のOCの参考にしている。OCの内容で参加者の増員が見込まれるので時期と内容を話し合っている。	OCの参加者はほとんどが高校生なのでもっと高校生の目線になって内容を検討していく必要がある。高校生の求めているものは何かリサーチしてゆきたい。
SNS等、学校の認知PRは適切に行えたか。	4	毎日インスタグラムを更新し、ファッションショーをYouTubeにアップして外部の人々に学校を知ってもらえるように努めている。	SNSのフォロワーを増やす方法を構築してゆきたい。

コメント
 20年度は多くの規制の中、十分気を付けて対面でのOCを実施できた。しかし参加者を制限しなければならない状況下で、もっと本学を知らない高校生がホームページを見てくれるような広報の仕方を検討していく必要がある。今後どうやって本学の良さを外部に発信できるか検討してゆきたい。

8. 財務

評価項目	評価	評価内容	課題
経営感覚の教職員間での共有は図れたか。	3	全員で学校の収支状況を共有し状況が悪いことは全員自覚している。学生数を増やし支出を押さえる意識を持っている。	外にアピール出来る新しいことを如何に支出を押さえて、かつ教育の質を下げない様に行うか考える必要がある。
財務改善への取り組みは推進できたか。	4	決算後に管理職に対して数値の説明を行った。管理職は必要に応じて他の教職員と情報の共有を行った。	具体的な収支改善への取り組みについて、教職員から主体的な提案があるような空気の醸成に努めたい。
コメント			
20年度は目標値まで学生数は確保したが支出が多く、収支はマイナスであった。如何に学生数を確保して教育内容を充実させて支出を減らすか、教員一人一人の課題として取り組みたい。			

9.法令等の遵守

評価項目	評価	評価内容	課題
コンプライアンス意識を再確認できたか。	3	法人に「コンプライアンス規程」を明文化している段階にあり、策定後に教職員間に意識の共有を図る。	これまでは暗黙の了解による性善説に則り学校運営を行ってきたが、現代の社会情勢を鑑み、早急な明文化の必要性を感じている。
自己評価の結果を公開しているか	4	自己評価を行い、現状の実態の把握・理解、問題点の改善に努めている。	今後も適切な情報公開に取り組んでいく。
コメント			
今後も財務情報や自己評価報告書等学校情報について公開していき、適切な学校運営を継続させていく。			

10.社会貢献・地域貢献

評価項目	評価	評価内容	課題
地域や地方公共団体と連携し、受託等を積極的に実施しているか。	3	中野まちめぐりなどの地域主催の催事に積極的に参加している。WEBショップなどで一般向けの販売を行っている。	コロナ禍でイベント等は中止となったが、WEB等を活用して、一般向け販売も継続していきたい。
コメント			
<p>コロナにより学園祭が中止となったため、対面販売は行うことができなかったが、WEB販売を行った。今後はWEB販売での販促をいかに仕掛けるか検討していく必要がある。また、ボランティア活動として卒業生が勤務する医療機関(総合病院)から材料の提供を受け本校の有志学生数名と一部の教員とで手分けをして、約450枚のマスクを縫い医療機関に進呈した。11月には中野レンガ坂商店街主催のギネス世界記録挑戦企画に学生が参加した。3月には新宿マルイ本館イベントスペースにて、期間限定でファッションショーの映像公開と学生作品の展示を行った。3月15日には、丸の内ファッションウィーク実行委員会主催(代表企業:三菱地所株式会社)の丸の内の活性化イベントMARUNOUCHI FASHION WEEK 2021の「FUTURE DESIGNER COLLECTION」ファッションショーに作品を提供した。</p>			

11.国際交流

評価項目	評価	評価内容	課題
留学生受入れ、学習・生活指導等について適切な体制が整備されているか。	4	留学生専門職員を配置し、日本語講座実施による学習支援等適切な対応をしている。	留学生の受入れから学習支援等適切な対応を継続していきたい。
<p>コメント</p> <p>留学生対応の専門の職員がいるため、日本語の問題や生活面での不安等についても一人ひとり丁寧に対応ができています。今後も適切な対応を継続させていく。</p>			

おわりに

新型コロナウイルス感染症の影響で様々な予定の変更を余儀なくされた今年度は、学校行事や学生募集活動の計画的スムーズな実施が難しい状況にあった。外的要因による募集環境が改善されないままに年度末を迎えてしまったため、経営面においても厳しい状況が続いていると感じる。一方、組織全体を見直す絶好のタイミングだった側面も確かにあり、その中で浮き出た課題を解決し、本学で学ぶ学生へのより充実した教育環境作りに邁進するべく志を新たにした年とも言える。

繰り返しにはなるが、新型コロナウイルス感染症の影響でより一層経営が厳しくなったことは否めない。しかし、そんな中であっても本校が学生に対して提供する教育の品質をさらに上げていくことは変わらない命題としたい。